

令和4年度進行管理・評価シート
横手市歴史的風致維持向上計画（平成30年7月11日認定）
（最終変更 令和5年3月30日）

□進捗評価シート(様式1)

①組織体制(様式1-1)

1 計画実施のための組織体制 1

②重点区域における良好な景観を形成する施策(様式1-2)

1 景観計画との連携 2

③歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項(様式1-3)

1 横手市増田伝統的建造物群保存地区修理等事業 3

2 建造物文化財等調査事業 4

3 後三年合戦関連遺跡群調査事業 5

4 羽黒町・上内町地区景観重点地区景観形成事業 6

5 増田地区景観重点地区景観形成事業 7

6 北部重点区域環境整備検討事業 8

7 「横手を学ぶ郷土学」事業 9

8 ふるさと再発見地域探訪支援事業 10

9 りんごの歴史探訪支援事業 11

10 郷土文化保存伝承支援事業 12

11 後三年合戦周知事業 13

12 りんごまつり開催支援事業 14

13 歴史的風致情報発信事業 15

14 案内板設置事業 16

15 都市計画道路八幡根岸線事業 17

16 果樹園景観眺望視点場整備事業 18

17 ガイド養成事業 19

④文化財の保存又は活用に関する事項(様式1-4)

1 文化財の調査、指定、保存と活用 20

2 文化財の修理、周辺環境の整備 21

3 文化財の防災 22

4 文化財の普及・啓発の取組、民間団体への支援・協力 23

5 埋蔵文化財の取り扱い 24

⑤効果・影響等に関する報道(様式1-5)

1 旧片野家所蔵品を解説 大書の揮毫も披露 秋田市の書家・長沢さん 25、26

⑥その他(効果等)(様式1-6)

1 歴史的風致形成建造物の利活用によるまちなか回遊性の向上と、にぎわいの創出 27

□法定協議会等におけるコメントシート(様式2) 28

評価軸①-1
組織体制

	評価対象年度	令和4年度
項目	現在の状況	

計画実施のための組織体制	<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手
--------------	---

計画に記載している内容

歴史的風致の維持向上を図るためには、関係各課との意識と情報の共有が不可欠であり、本計画の推進にあたり、まちづくり推進部文化振興課を事務局に、文化財保護課、都市計画課、農業振興課等と連携した庁内体制を構築していく。

また、町内会や地域運営組織、地区会議、文化財愛護団体等との協働を図るほか、国や秋田県・秋田県教育委員会と協議を行い、助言や支援を得るとともに、歴史まちづくり法第11条に基づき設置した「横手市歴史的風致維持向上協議会」において、計画の推進や変更、事業の円滑な実施について協議を行う。必要に応じて都市計画審議会等の各審議会に報告し助言を得るほか、文化財等所有者や関係団体との連携を行うものとする。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

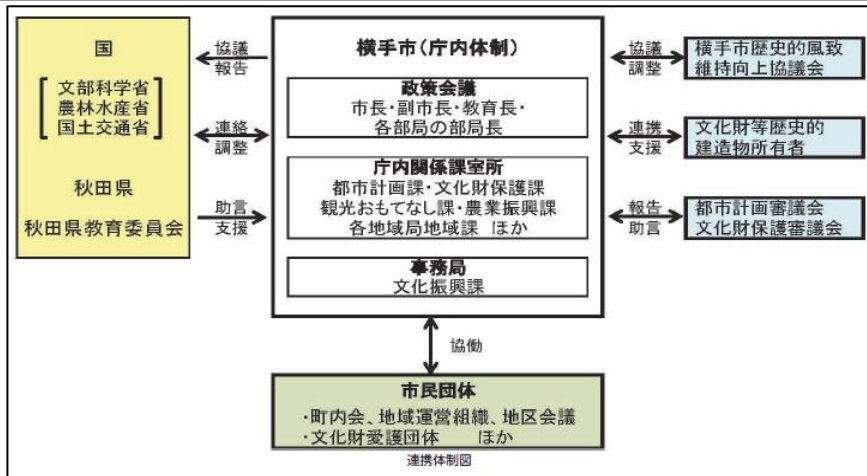
関係部署との協議等により事業の進捗と計画の促進を図った。

- ・庁内関係課室所による「歴史まちづくり連絡調整会議」を2回実施した。(令和4年4月28日、11月8日)
- ・横手市歴史的風致維持向上協議会を2回実施した。(令和4年7月14日、令和5年2月10日)
- ・中間評価にかかる外部有識者による事業評価(現地確認、関係課ヒアリング)を実施した。(令和4年10月20日)

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
----------------	--------------------------

<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	中間評価の過程で、計画推進に向けた今後の課題が明確化された。
--	--------------------------------

状況を示す写真や資料等



横手市歴史的風致維持向上計画の実施体制(令和4年度)



歴史まちづくり連絡調整会議
(令和4年4月28日)



中間評価・外部有識者による事業評価
(令和4年10月20日)

評価軸②-1

重点区域における良好な景観を形成する施策

	評価対象年度	令和4年度
項目	現在の状況	
景観計画との連携	<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

計画に記載している内容
 横手市の景観施策は、平成16年(2004)に施行された景観法に基づき、景観保全と創造に取り組んでいる。平成21年(2009)に横手市は景観行政団体になっており、その施策は、景観条例、景観計画、景観地区に関する都市計画、屋外広告物条例の4つの柱から成り立っている。景観計画と景観地区に関する都市計画は、「山と川、豊かな歴史あふれる景観を、守り、育て、つなげる田園都市」を目指している。横手市景観計画では、自然景観、田園景観及び市街地景観の3つの景観に区分し、それらを横断する景観形成軸(田園景観形成軸、水辺景観形成軸、都市景観形成軸、丘陵地の景観形成軸)を設定することで、景観の形成・維持の方針が定められている。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

建築物や工作物の新築、増築、改築若しくは移転、外観を変更することとなる修繕若しくは模様替又は色彩の変更、開発行為などのうち、景観への影響が大きいものについては、景観法第16条に基づく届出制度により、景観誘導を図っている。
 ・届出対象行為の件数:26件

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	景観づくりの基準は、「自然景観」「田園景観」「市街地景観」のゾーン別に設定しているが、色彩については、地域特性が異なるゾーンを一律の基準で規制している。そのため、実態との乖離が生じており、そうした乖離を解消し、より横手市の地域特性や風土を活かした景観形成を進めていくため、景観計画における「景観づくりの基準」の見直しや地域の景観を特徴付ける良好な景観資源の保全と活用のため、景観重要建造物の指定についても検討していく。

状況を示す写真や資料等



景観重点地区(増田地区)における建築物の補修【実施前】



景観重点地区(増田地区)における建築物の補修【実施後】

まちづくりのガイドラインに適合するよう色彩等の調整を図った。

評価軸③-1

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

		評価対象年度	令和4年度
項目		現在の状況	
横手市増田伝統的建造物群保存地区修理等事業		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

事業期間 平成26年度～令和9年度

支援事業名 国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金(国)
重要伝統的建造物群保存地区整備費補助金(県)

計画に記載している内容 横手市増田伝統的建造物群保存地区保存計画で特定されている伝統的建造物の修理及びそれ以外の建造物等の修景を行う所有者への支援、市所有の伝統的建造物の修理を行う。また、耐震診断や耐震補強についても必要に応じて行っていく。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

3件3棟の修理等事業を実施した。
 ・高橋茶舗座敷蔵修理事業(登録有形文化財)
 ・旧勇駒酒造西蔵修理事業(登録有形文化財)
 ・旧佐々虎呉服店主屋修理事業(登録有形文化財)

進捗状況 ※計画年次との対応 実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

計画どおり進捗している
計画どおり進捗していない
 歴史的なまちなみを保護・継承するとともに、修理技術者に対する修理技術(伝統工法)向上や防災意識の向上にもつなげるなど、様々な角度から歴史的風致の維持向上に結び付ける意識づけが必要である。

状況を示す写真や資料等

旧勇駒酒造西蔵修理事業(登録有形文化財)



修理前



修理後

旧佐々虎呉服店主屋修理事業(登録有形文化財)



修理前



修理後

評価軸③-2

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

	評価対象年度	令和4年度
項目	現在の状況	
建造物文化財等調査事業	<input checked="" type="checkbox"/> 実施済 <input type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

事業期間 平成29年度～令和4年度

支援事業名 市単独事業

計画に記載している内容 重点区域における歴史的風致を構成する歴史的建造物を中心に、市内全域を対象とした未調査の歴史的建造物の調査を実施し、文化財的価値付けを検討し、保護措置を図る。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

市内全域を対象とした未調査の歴史的建造物2件(住宅)について敷地建物配置の実測調査と、建物4棟の実測調査を行った。
 令和4年度調査した建造物(寺院)2棟についての文化財的価値付けを検討し、所有者と協議した。

進捗状況 ※計画年次との対応 実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	ひきつづき、歴史的建造物の文化財的価値付けを進め、保護措置を図っていく。
--	--------------------------------------

状況を示す写真や資料等



歴史的建造物現況調査状況
(8月28日)



歴史的建造物現況調査状況
(8月28日)

評価軸③-3
歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

	評価対象年度	令和4年度
項目	現在の状況	
後三年合戦関連遺跡群調査事業	<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

事業期間 平成22年度～令和6年度

支援事業名 国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金(国)
文化財保護管理費補助金(県)

計画に記載している内容 推定地となっている金沢柵をはじめとした後三年合戦関連遺跡群の場所を特定するために、金沢城跡等の関連遺跡群において、科学的方法に基づいた発掘調査を行う。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

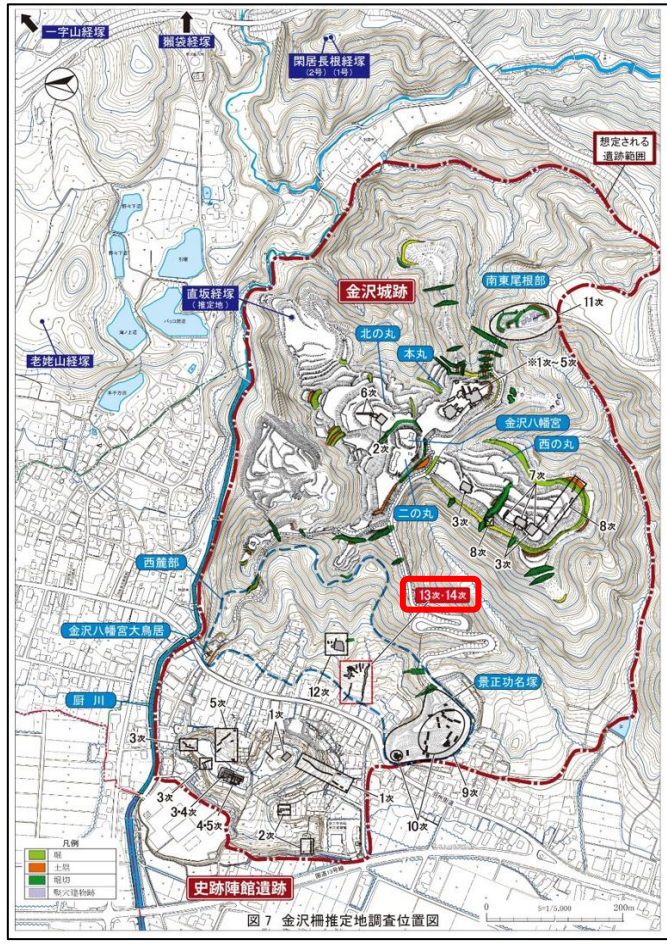
金沢城跡西麓部の調査を実施し、中世後期以前の柵と堀と考えられる遺構が検出された。金沢柵推定地第3次調査5ヵ年計画では、金沢城跡西麓部の調査を継続しており、今年で3年目。発掘調査面積122㎡。

進捗状況 ※計画年次との対応 実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

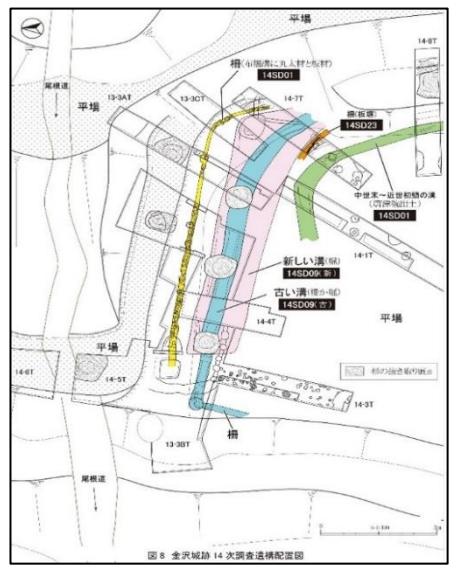
計画どおり進捗している
計画どおり進捗していない

- ・後三年合戦関連遺跡整備指導委員会及び史跡検討会、また文化庁による現地指導において、調査区周辺の継続調査の必要性を指摘された。
- ・過年度調査の取りまとめを視野に入れ、調査を継続する。

状況を示す写真や資料等



柵跡の検出状



遺構配置図

金沢柵推定地(金沢城跡・陣館遺跡)
14次が今年度の調査地点

評価軸③-4

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

		評価対象年度	令和4年度
項目		現在の状況	
羽黒町・上内町地区景観重点地区景観形成事業		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	
事業期間	平成26年度～令和9年度		
支援事業名	市単独事業		
計画に記載している内容	羽黒町・上内町地区景観重点地区において、板塀や生垣の設置・修繕等への支援を行うことで、良好な景観を形成していく。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
横手城下に位置する羽黒町・上内町では、かつての武家町の面影が残り、歴史的建造物の他、板塀や生垣などの工作物が織りなす自然と歴史が調和した景観は維持向上すべき歴史的風致の一つであり、それらを取り巻く周辺環境も景観上、保全すべきものである。 令和4年度は以下の補助金を交付した。 ・景観形成事業補助金 3件(板塀の補修、生垣の補修) ・景観まちづくり委員会補助金 1件(桜の調査・診断)			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	歴史的風致を構成する要素となっている建造物を保存するため、継続的に修復に対する支援を行いながら、市民の歴史資源や景観の保全に対する意識の醸成を図る。		

状況を示す写真や資料等



実施前



実施後

景観形成事業補助金(板塀の補修)



実施前



実施後

景観形成事業補助金(板塀・基礎の補修)

評価軸③-5
歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

	評価対象年度	令和4年度
項目	現在の状況	
増田地区景観重点地区景観形成事業	<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

事業期間 令和元年度～令和9年度

支援事業名 市単独事業

計画に記載している内容
 増田地区景観重点地区において、景観ガイドラインの基準に適合した、建物の外観の部分的な補修や木造門塀、垣等の設置、補修又は修景を行う際に支援をすることで、良好な景観を形成していく。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

令和4年度は、以下の補助金を交付した。
 ・景観形成事業補助金 2件(板塀の補修)
 ・景観まちづくり委員会補助金 3件(ゴミ集積所塗装、修繕、木製修景)

進捗状況 ※計画年次との対応 実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

計画どおり進捗している
計画どおり進捗していない

増田地区景観重点地区内における街なみに調和した建築物等整備を実施することにより、歴史的街なみと調和した風情ある景観の保全及び形成を図る。

状況を示す写真や資料等



実施前



実施後

景観形成事業補助金(板塀の補修)



実施前



実施後

景観まちづくり委員会補助金(ゴミ集積所木製修景)



実施前



実施後

景観まちづくり委員会補助金(ゴミ集積所塗装)

評価軸③-6

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

	評価対象年度	令和4年度
項目	現在の状況	
北部重点区域環境整備検討事業	<input checked="" type="checkbox"/> 実施済 <input type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

事業期間 令和2年度～令和4年度

支援事業名 市単独事業

計画に記載している内容 羽黒町・上内町地区景観重点地区と、旧街道の羽州街道沿いにおける歴史的風致との連続性を活かした環境整備について、住民等とのワークショップを開催しながら方針を検討する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

- ・前年度まで作成した北部重点区域環境整備方針にもとづき、「横手城下歴史ウィーク」(11/1～6)として歴史的建造物の一般公開、まちあるきアプリの試行、ガイド付きまちあるき等、まちなか回遊性の向上を図る仕組みづくりと、「横手城下」という概念による地域ブランディング推進の試みを展開した。
- ・旧片野家住宅(歴史的風致形成建造物)の活用方法を公募(トライアル開放)、期間中1,200名来場。
- ・音声ARまちあるきアプリ「きくあるく横手城下」のコンテンツ監修、まちあるきクーポンの発行実験。
- ・うらから横手 横手城下の羽州街道をあるく(歴史的風致散策)の開催。

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

- 計画どおり進捗している
- 計画どおり進捗していない

・横手城下歴史イベントを定着させ、及び同エリアの語り部(案内人)育成を目的とした年間講座を公民館、図書館と連携して実施していく。

状況を示す写真や資料等



「きくあるく横手城下」体験の様子(上)
体験者の移動軌跡 分析例(下)



旧片野家住宅での「庭園小市」(左)、ミニコンサート(右)の様子



MINEBA(市推奨アプリ)での公募(トライアル開放)の様子



旧片野家住宅での
・市民大学講座(上)
・煉瓦蔵での着物着装ショー(下)



「うらから横手」の様子



評価軸③-7

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目	評価対象年度	令和4年度 現在の状況
「横手を学ぶ郷土学」事業		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手

事業期間 平成27年度～令和9年度

支援事業名 市単独事業

計画に記載している内容 横手を学ぶ郷土学総合テキスト、まんがによる歴史テキストの作成や子ども伝統芸能発表大会の開催を行い、市内小中学生等の郷土愛醸成を図る。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

児童生徒や市民の郷土歴史文化理解の深化と、魅力を市内外へ発信する人材の育成のため学校等と連携して事業を進めた。

- ・郷土学総合テキスト『よこてだいすき』を市内全小学一年生及び転入教職員に配布、授業で活用した。(493部配布)
- ・横手を学ぶ郷土学ワークショップとして、中学生を対象に遺跡発掘体験を実施した。
- ・民俗芸能の映像をデジタル化して学習利用できるよう、対象選定の事前状況調査を実施した。
- ・市内小中学校に新型コロナで途絶えた資料館の活用を呼びかけ、受け入れを行った。(3月末現在 雄物川郷土資料館 11件、後三年合戦金沢資料館 1件)
- ・ほか、『よこてだいすき』をテキストとして、地域通訳案内士養成を支援した。【詳細は横手-19に記載】

進捗状況 ※計画年次との対応 実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

計画どおり進捗している
計画どおり進捗していない 既存コンテンツを利用したより広範な活用を図り、市内小中学校では教育用タブレットを使用するほか、一般市民等への展開を検討していく。

状況を示す写真や資料等



遺跡発掘体験の様子
平鹿中学校(令和4年7月25-27日)



民俗芸能等デジタル化の調査打合せの様子



資料館学習見学
受け入れの様子(左、下)
山内小学校
(令和4年6月24日)



地域通訳案内士養成講座の様子
(令和4年12月3日)



評価軸③-8
歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

	評価対象年度	令和4年度
項目	現在の状況	
ふるさと再発見地域探訪支援事業	<input checked="" type="checkbox"/> 実施済 <input type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

事業期間 平成23年度～令和4年度

支援事業名 市単独事業

計画に記載している内容 増田地域西成瀬地区周辺に残る近代化に資した史跡や歴史的建造物等を巡る歴史探訪の開催を支援し、歴史の認識向上を図る。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

西成瀬地区交流センターで主催する「歴史・文化を学ぶ会」の開催及び「歴史散歩マップ」の作成・配布を支援した。

・「吉野・上吉野・湯野沢の歴史を顧みる」と題し、集落の成り立ちや堰の開削、農業の発展などを学んだ。(参加者 21名)、「荻袋・熊淵・大和沢の歴史を顧みる」と題し、史料から村の姿を読み解き、中世の城跡、神社、黒坂堰の開発についても学んだ。(参加者 24名)

・「西成瀬歴史散歩 Vol.4」を作成、地区全戸に配布した。地区を流れる成瀬川に架かる真人橋や菅生橋の変遷を紹介した。

・西成瀬地区交流センター主催 実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

計画どおり進捗している
計画どおり進捗していない

計画記載の事業期間は終了するが、今後も地域の歴史や文化を学ぶ機会を支援していく。

状況を示す写真や資料等



「吉野・上吉野・湯野沢の歴史を顧みる」の様子
(令和4年7月15日)



「荻袋・熊淵・大和沢の歴史を顧みる」の様子
(令和4年11月25日)



西成瀬歴史散歩 Vol.4
表面(上)、裏面(右)



評価軸③-9

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

	評価対象年度	令和4年度
項目		現在の状況
りんごの歴史探訪支援事業		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手

事業期間 令和元年度～令和5年度

支援事業名 市単独事業

計画に記載している内容 秋田県におけるりんご栽培発祥の地である増田・平鹿地域のりんごに関する歴史探訪を支援する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

【増田・平鹿地域】亀田(増田地域)・醍醐(平鹿地域)両地区交流センターの共催により実施。
 ・県果樹試験場 圃場の視察(栽培技術の解説)、秋田のりんご栽培発祥地・清香園の見学(りんご栽培の先駆者・伊藤謙吉氏の果樹園)、田中正市顕彰碑(金麓園選果場)、藤原利三郎頌徳碑(応鷹園)など、りんご栽培ゆかりの地を見学した。
 ・また、亀田地区の樹園地で撮影された映画「そよかぜ」(昭和20年10月公開)ロケ地や、主題歌「りんごの唄」の碑(真人公園)を巡り、当地におけるりんごにまつわる理解を深めた。参加者19人

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

計画どおり進捗している
計画どおり進捗していない

今後も同様の取組みを継続するとともに、果樹生産地を維持していくために後継者育成の視点も求められる。

状況を示す写真や資料等

【増田・平鹿地域】りんごの歴史探訪
 令和4年5月14日(土)



りんごの歴史探訪の様子
 清香園にて伊藤謙吉氏の子孫より解説



りんごの歴史探訪の様子
 田中正市顕彰碑にて

亀田地区交流センター、醍醐地区交流センター合同企画
 地域のりんご栽培にふれてみませんか
りんごの歴史探訪

地域の宝でもあるりんご栽培
 その歴史を訪ね、りんごについて知識を深めるイベントです!!

日時 : 令和4年 **5月14日(土)**
※雨天決行(雨具をご持参ください)

集合時間 : 午前8時20分(午後1時解散予定)

集合場所 : 平鹿町の参加者は醍醐地区交流センター
 増田町の参加者は亀田地区交流センター

参加費 : 無料

参加対象 : 小学生以上(保護者同伴歓迎)、大人だけの参加も大歓迎です。
※先着15名(予定人数に達し次第締め切らせていただきます)
※平鹿町地域からも15名の募集をしています。

申込み方法 : 氏名・学年や年齢・住所・電話番号を添えて、**5月6日(金)**まで
 亀田地区交流センター (TEL: 45-2321) までご連絡ください。
(留守の際は留守電か FAX45-4091 までお知らせください)

8:30 それぞれの地区交流センター出発
 8:45 醍醐の果樹試験場着(圃場散策)
 伊藤謙吉氏園
 10:00 広域農道(馬鞍トンネル付近)
(天気が良ければ鳥海山を眺望できます。りんごの花と鳥海山のコントラストをゆっくり楽しんでください)
 10:30 田中正市顕彰碑(金麓園選果場)
 11:00 J Aふるさと、増田フルーツセンター
 11:45 圃場 藤原利三郎翁の頌徳碑
 12:05 真人公園着(りんごの唄モニュメント)
 12:30 真人公園発
 12:50 それぞれの地区交流センター着 解散
※タイムスケジュールは当日の天候によって変更になることもあります。

りんごの歴史探訪のチラシ

評価軸③-10
歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

	評価対象年度	令和4年度
項目	現在の状況	
郷土文化保存伝承支援事業	<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

事業期間 平成18年度～令和9年度

支援事業名 市単独事業

計画に記載している内容 各地域に伝承される有形・無形の文化財の現状確認と、市民を対象にした探訪会や講演・学習会の開催、伝承の記録保存事業の実施に対し支援を行い、郷土の貴重な文化の保護と継承を図る。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

横手市文化財保護連絡協議会や関係課等が行う保護や取り組みを支援した。
 ・市内全域の文化財標柱及び説明板の現状確認の実施。
 ・市民を対象にした地域の文化財探訪や講話会を実施。(文化財探訪6回、講話会3回)
 ・年末年始行事伝承事業を小学生を対象に実施。

進捗状況 ※計画年次との対応 実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	郷土を知る探訪事業等への幅広い年代に関心を抱かせる取り組みが必要となっている。
--	---

状況を示す写真や資料等



秀衛街道 仁王門

標柱・説明板パトロール
(令和4年6月2日～11月15日)



年末年始行事伝承会の様子
雄物川地域(令和4年12月15日)



文化財探訪の様子
横手地域 黒川地区の若宮神社前
(令和4年6月23日)

評価軸③-11

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

	評価対象年度	令和4年度
項目		現在の状況
後三年合戦周知事業		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手

事業期間 平成21年度～令和6年度

支援事業名 国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金

計画に記載している内容 後三年合戦関連遺跡群や、地域で伝えられてきた後三年合戦にまつわる伝承地などを、広く市民等に周知し、まちづくり及び郷土理解の促進、観光資源として活用するために、シンポジウム等を開催するほか、パンフレット等を作成する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

- ・後三年合戦沼柵公開講座は、雄物川地域に所在する雄勝城推定地の周知を目的に、調査報告及び研究者による講演を実施した。(参加者 120名)
- ・後三年合戦シンポジウムは、後三年合戦関連遺跡群の今年度調査成果【横手市-5に記載】の調査報告及び研究者による講演を実施した。(参加者 140名)
- ・コロナ禍により入場制限措置をとったため、ホームページで資料公開及び、後日YouTube配信を行った。

進捗状況 ※計画年次との対応 実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

計画どおり進捗している
計画どおり進捗していない 一定の成果がみられることから、発掘調査現場等での体験と公開講座を連動させ、より深い理解につなげる取り組みを図る。

状況を示す写真や資料等



後三年合戦沼柵公開講座 ポスター



後三年合戦シンポジウム ポスター



後三年合戦沼柵公開講座の様子
令和4年8月7日(日)、雄物川コメセン



後三年合戦シンポジウムの様子
令和4年12月17日(土)、かまくら館

評価軸③-12

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

	評価対象年度	令和4年度
項目	現在の状況	
りんごまつり開催支援事業	<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

事業期間 昭和41年度～令和9年度

支援事業名 市単独事業

計画に記載している内容 秋田県のりんご栽培発祥の地である平鹿地域及び増田地域において、りんごの収穫期に毎年行っているイベントを支援し、市の内外に平鹿りんごのPRを行う。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

【増田地域】真人公園りんごまつり
 ・(一社)増田町観光協会が主催する「真人公園りんごまつり」を運営支援した。
 ・りんご販売、ミスりんごコンテスト、りんご皮むき競争、りんごの唄コンクール、りんごウルトラクイズ(来場者 約350人)
【平鹿地域】平鹿りんご味覚まつり
 平鹿りんご味覚まつり実行委員会による「平鹿りんご味覚まつり」の開催を支援した。会場内では、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点からステージイベントは行わなかったが、りんご直売の他、樹園地でのもぎ取り体験等が行われ、平鹿りんごのPRに繋がった。(来場者 約1,200人)

進捗状況 ※計画年次との対応 実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

計画どおり進捗している
計画どおり進捗していない
 現在、平鹿りんご味覚まつりの会場としている市の施設が民間譲渡の計画となっている。譲渡された場合、イベントの開催会場として使用するための交渉または、別会場の確保を行う必要がある。

状況を示す写真や資料等

【増田地域】真人公園りんごまつり(令和4年10月23日) 会場:真人山荘(雨天のため)



ミスりんごコンテストの様子



りんご皮むき競争の様子

【平鹿地域】平鹿りんご味覚まつり(令和4年11月3日) 会場:ときめき交流センター ゆっふる



りんご狩り体験の様子



りんご直売の様子

評価軸③-13

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

	評価対象年度	令和4年度
項目	現在の状況	
歴史的風致情報発信事業	<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

事業期間 令和元年度～令和9年度

支援事業名 市単独事業

計画に記載している内容 重点区域内の回遊を促すようなガイドマップの作成や、案内・誘導をサポートするため、主要スポットに公衆無線LAN(Wi-Fi)環境を整備する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

・ガイドマップについて、既存観光パンフレット(横手じゃらん)の増刷及び電子ブックでの運用により観光地情報の発信、回遊の促進を図った。
 ・訪日外国人旅行者の滞在満足度向上及び観光地情報の発信を目的に、令和3年度に作成した英語解説文をもとに、中国語解説文(簡体字、台湾繁体字)を作成した。【詳細は横手-16に記載】

進捗状況 ※計画年次との対応 実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

計画どおり進捗している
計画どおり進捗していない

・解説文は、関係課と共有を図り、ホームページや案内板での活用を検討する。
 ・Wi-Fi環境整備については、追加スポットを検討する。

状況を示す写真や資料等



「横手じゃらん」の電子ブック パソコン画面(上)
 スマートホン画面(右)



評価軸③-14
歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目	評価対象年度	令和4年度
案内板設置事業		現在の状況
		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手

事業期間 令和2年度～令和9年度

支援事業名 観光振興事業費補助金(地域観光資源の多言語解説整備支援事業)

計画に記載している内容 市内の文化財や史跡などに誘導する案内板等について、案内機能の向上を図るために、表記方法や意匠の統一化、多言語化等、策定したサインガイドラインに基づき整備する。ガイドラインを踏まえ、計画的に案内板の設置を行う。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

・訪日外国人旅行者の滞在満足度向上及び観光地情報の発信を目的に、令和3年度に作成した英語解説文をもとに、中国語解説文(簡体字、台湾繁体字)を作成した。
中国語に翻訳する解説文13点
作成言語は、簡体字、台湾繁体字

進捗状況 ※計画年次との対応 実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	解説文は、関係課と共有を図り、ホームページや案内板での活用を検討する。
--	-------------------------------------

状況を示す写真や資料等

解説文一覧

NO.	スポット名(タイトル)	英語検証結果	中国語文字数	媒体
016-002	増田の歴史ある商家地区	○ 3 要案追加		WEB
016-004	横手市増田まんが美術館	○ 1 要案、1 行追加 1 要案書き換え		WEB
016-005	横手の深い東樹園とさんぶしの物語	○ 1 要案追加		WEB
016-006	横手の伝統的な食文化の保存	○		WEB
016-008	横手の城下町とそれを現下ろす天守閣	○ 1 要案書き換え		WEB
016-010	横手の送り盆まつり	○ 1 要案追加		WEB
016-012	横手の熊まつり	○ 2 要案、3 行追加		WEB
016-013	内蔵：増田の隠れた蔵	○ 1 要案追加 (同NO.002)		WEB
016-014	内蔵の今と昔	○ 1 要案追加 (同NO.002)		WEB
016-015	横手の伝統的なスノーシュー かまくらの豊かな歴史	○		WEB
016-016	自分だけのかまくらを作ろう	○		WEB
016-017	横手の伝統的なぼんてん行列	○ 1 要案追加 (同NO.012) 1 要案確認		WEB
016-018	ぼんてんの歴史と由来	○ 1 要案確認		WEB

作成した解説文の一覧

016-002 秋田県横手市

【タイトル】 増田の歴史ある商家地区
【想定媒体】 WEB

<簡体字>

増田历史商业街区

増田的传统商人住宅，彰显着它作为繁荣商业中心的悠久历史。虽然増田属于日本群島上的多雪地区，但从 17 世纪下半叶到 20 世纪初一直处于繁荣状态。这种多雪气候下的长期繁荣也体现在了増田地区住宅独有的建筑特征上，比如被称为“内蔵”的室内大库房。在増田历史商业街区的主街上，几乎家家户户都建有这种独具一格的库房。许多老房子如今依然是私人宅邸，居住着已经传承了数代的商人家族。

増田在经济上的成功主要得益于它的地理位置。这里是皆瀬川和成瀬川两条河流的交汇点，也是小安街道与手倉街道两条公路的交叉处。河流为货运提供了便利，道路通往仙台藩，旅行者可以在那里转道前往首都江戸（今东京）。増田的经济自 17 世纪初开始发展、繁荣，到 19 世纪后半叶时，这里已经成为秋田县最大的烟草和丝织品产地。20 世纪初，邻近的吉野发现了丰富矿藏，大约 9000 名矿工汇聚到此，令増田的经济进一步腾飞。

増田的朝市

増田作为贸易和经济活动中心的历史，可以追溯到此地出现朝市（早市）的 1643 年。当时的藩政府看好増田街接水、陆主干道地理优越性，批准其建立朝市。人们通常在朝市上购买本地农产品和一些其它商品，其中诸如春天的山野菜、秋天的蘑菇时令鲜货，更是吸引了无数购物者专程前来。除此以外，市场还是各种新闻和商业信息流通传播的重要渠道。

全盛时期的朝市每两天举办一次，数十个摊位沿着街道两边排开。但随着社会经济环境与消费需求的转变，朝市规模渐渐缩小。尽管如此，増田的朝市还是一直延续到了今天，如今，每月逢尾数为 2、5、9 的日期开市。

悬山顶的商人住宅

増田的主街名叫“中七日町街”，沿街传统建筑的屋顶都为悬山式切妻屋根，且主屋脊与街面垂直，看上去很有特色。这样的设计是为了让屋顶滑落的积雪都堆积在房屋两侧，避免堵住面对街道的前门，非常适合本地区多雪的气候环境。每家每户都有沿房屋纵向延伸的土路过道，过道经过一个被称为“内蔵”的室内大库房，一直通到一个小庭园的门口。

4

作成した解説文の一例

評価軸③-15
歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

	評価対象年度	令和4年度
項目	現在の状況	
都市計画道路八幡根岸線事業	<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

事業期間 平成29年度～令和5年度

支援事業名 社会資本整備総合交付金(地方街路交付金事業)

計画に記載している内容 本市中心市街地を東西に連絡し、横手城下の伝統行事でも利用されお祭り会場を通る都市計画道路の八幡根岸線を拡幅し、歩道を整備する。

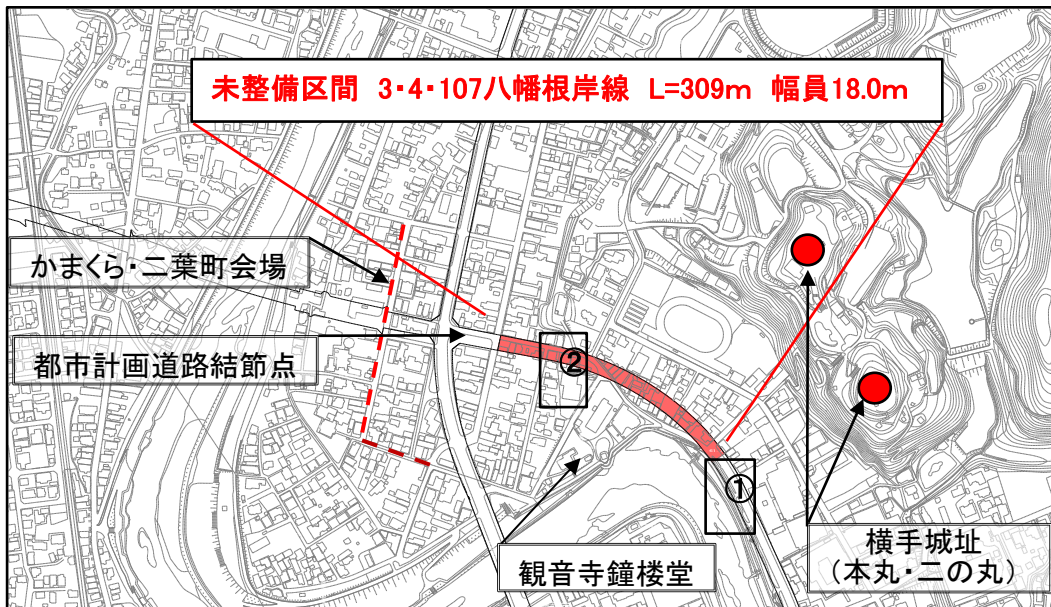
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

・令和5年3月末までに用地買収(4,455㎡/4,514㎡、98.7%)、物件補償(32件/33件、97.0%)を完了した。

進捗状況 ※計画年次との対応 実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

計画どおり進捗している
計画どおり進捗していない
 中心市街地での円滑な交通と冬季でも安心して通行できる空間を早期に確保するため、八幡根岸線の整備推進を図る。

状況を示す写真や資料等



現状

①地点から都市計画道路結節点方面



現状

都市計画道路結節点方面から②地点方面

評価軸③-16
歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

	評価対象年度	令和4年度
項目	現在の状況	
果樹園景観眺望視点場整備事業	<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

事業期間 令和4年度～令和5年度

支援事業名 市単独事業

計画に記載している内容 平鹿りんごの生産環境を一望できる丘陵地に展望スペースを整備し、併せて説明版等の整備を行う。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

・南部重点区域内で、雄平フルーツラインからのアクセスが容易な市有地を視点場予定地に決定。
 ・予定地の平鹿地域・醍醐明沢周辺を散策する「うらから横手 映画『山まつり梵天唄』と信仰の山々」を開催。当地におけるりんご栽培の歴史と戦前の映画ロケをヒントに、“平鹿りんご”としての地域ブランディングの切り口と視点場整備の意義を共有した。

進捗状況 ※計画年次との対応 実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

計画どおり進捗している
計画どおり進捗していない
 ・令和5年度に、雄平フルーツライン沿いに誘導のための案内看板と、現地に説明看板を設置する。

状況を示す写真や資料等



視点場予定地から平鹿りんごの樹園地と鳥海山を臨む(11月初)



視点場予定地の位置



「うらから横手」のチラシ



視点場予定地から平鹿りんごの樹園地と田植え後の水田風景を臨む(6月初)



「うらから横手」の様子(令和4年10月15日)

評価軸③-17
歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

	評価対象年度	令和4年度
項目	現在の状況	
ガイド養成事業	<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

事業期間 令和元年度～令和9年度

支援事業名 文化芸術振興費補助金(博物館を中核とした文化クラスター推進事業)

計画に記載している内容 地域活性化や観光振興に繋げるため、既存の日本語ガイドに加えて、外国語に対応したボランティアガイドを養成するほか、地域や学校等との連携も視野に、幅広い年齢層のガイドを育成する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

・秋田県横手市地域通訳案内士育成等計画 を策定
 令和4年7月22日付で観光庁長官の同意を得て、地域通訳案内士育成等計画を策定した。
 語学、コミュニケーション・ホスピタリティガイドスキル、地域観光に関する研修など計40時間の研修及び効果測定を実施し、英語の地域通訳案内士5名以上を育成するもの。
 ・地域通訳案内士育成研修の実施。
 【募集期間】 9月30日(金)から10月25日(火)
 【応募者】 7名
 【研修期間】 10月28日(金)から1月29日(日)まで ※研修回数 10回、研修時間 40時間
 【効果測定】 令和5年2月11日(土)実施、7名を地域通訳案内士に認定

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

計画どおり進捗している
計画どおり進捗していない
 受講生の募集は、ホームページ、通訳ボランティアへの案内、コミュニティFM放送、デジタルサイネージ、プレスリリースにより周知を図った。

状況を示す写真や資料等



語学
(令和4年11月5日)



コミュニケーション・ホスピタリティガイドスキル
(令和4年11月20日)



地域に関する知識 (令和4年12月3日)



評価軸④-1

文化財の保存又は活用に関する事項

	令和4年度
項目	現在の状況
文化財の調査、指定、保存と活用	<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手

計画に記載している内容

市内には、令和5年3月時点で、国指定(選定)10件、県指定40件、市指定164件の指定文化財が存在するほか、56件の建造物が登録有形文化財として登録されている。指定文化財については、関係法令に基づき、所有者等が適切な保存管理を実施し、行政はその保存管理に関する助言・指導を行う。未指定の文化財は、計画的に調査研究を行い、保存と活用の措置を講じる必要性等を見極めながら、順次指定等を行う。

また、未指定も含めた文化財の総合的な把握と保護や活用の方針について定めるため、「文化財保存活用地域計画」の計画を策定する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

- ・歴史的建造物2件(住宅)について敷地建物配置の実測調査と、建物4棟の実測調査を行った。【横手市-4】
- ・金沢柵特定のための金沢城跡西麓部の調査を継続中で、今年度は金沢柵の区画施設の可能性がある柵と堀を検出した。【横手市-5】
- ・市指定文化財の『薄井村絵図』・文芸誌『樹陰』・脇差『伝小野寺市由来』と今回初公開の市指定文化財『八幡神社(沼館)古頭形兜』を展示した雄物川郷土資料館の特別展を実施した。

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	歴史的建造物調査や、発掘調査で確認された成果について、記録として残し、有識者等の協力を得ながら文化財的価値付けを検討する。

状況を示す写真や資料等



金沢城跡西麓部調査の様子
(令和4年11月3日)



歴史的建造物調査の様子
(令和4年8月28日)



令和4年度第3回雄物川郷土資料館特別展
『雄物川郷土資料館収蔵品展』
令和4年11月19日(土)～令和5年1月9日(月)開

評価軸④-2

文化財の保存又は活用に関する事項

項目	評価対象年度	令和4年度
文化財の修理、周辺環境の整備		現在の状況 <input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手

計画に記載している内容

有形文化財の建造物は、日頃の予防対策を含め、所有者等による維持管理と日常的な点検により損傷の早期発見に努め、健全性の維持や回復のための修繕を促進する。
 指定等文化財の修理及び整備については、改修履歴や調査記録を活用し、文化財の価値を維持することを目的に、適切な修理・整備が行われるよう対応する。その際、適切な指導、助言を行いながら補助制度の活用等、所有者や管理者の財政的な負担軽減を図る。未指定の文化財に関しては、現状調査により重要性及び緊急性を踏まえ、所有者と協議し適切な保存を図られるようにする。
 文化財の周辺環境を保全するため、都市計画法や景観法等による制度・規制を積極的に活用することにより、文化財周辺の景観を阻害する要素の改善や除却を推進するほか、文化財を良好な状態で維持するための環境保全対策についても検討する。また、文化財の説明板や案内板、標柱等の新設・再整備の際は文化財や周辺の環境と調和したものを設置する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

- ・重要文化財及び県指定建造物管理補助(雪害防止等)4件、市指定文化財補修補助1件を実施した。
- ・周辺環境整備として、県指定史跡吉田城跡及び秀衡街道の草刈り(3回実施)を支援した。
- ・国指定史跡大鳥井山遺跡内にあった残存木について、来跡者の安全に配慮し処理を実施した。
- ・重文旧松浦家住宅防災施設整備事業を実施し、自動火災通報装置の設置を支援した。

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	現在は経年劣化等への対応や日常の維持管理を中心に対応しているが、今後は各物件の文化財的価値を感じることができるような整備手法の検討が必要である。

状況を示す写真や資料等



国指定史跡 大鳥井山遺跡
残木処理の様子



倒壊前



倒壊時



県指定史跡 吉田城跡
環境整備事業(草刈り後)の様子



現況

市指定文化財 旦那門 の再建準備

評価軸④-3

文化財の保存又は活用に関する事項

		評価対象年度	令和4年度
項目		現在の状況	
文化財の防災		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

計画に記載している内容
 横手市地域防災計画により、文化財所有者・管理者、消防等の関係機関と連携しながら、防火・消火設備の整備や防災意識の徹底を図る。
 火災や地震等の災害による文化財の損失を防ぐため、少子高齢化や豪雪地帯という特性も踏まえ、個別の有形文化財ごとに防災対策を検討する等、被災リスクの予防・軽減に向けた取り組みを行う。また、防災に係る周知と防災教育の取り組みを通じて日常の防災意識の高揚に努めていく。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

- ・重文旧松浦家住宅防災施設整備事業を実施し、自動火災通報装置の設置を支援した。
- ・文化財防火デーに合わせ、重要文化財波宇志別神社神楽殿で神社関係者、消防関係者、文化財保護担当者が連携し、火災通報及び放水銃による消火訓練を実施する。
- ・横手市伝統的建造物群保存地区において、「増田まちなみ保存会」主催で、住民、消防本部、消防団及び市担当者が参加した防災訓練を実施した。地域住民、消防、市職員合わせて43名が参加。この訓練では、防災施設整備で設置された易操作性消火栓の操作講習も行った。

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	文化財所有者が高齢化しているため、地域住民、消防との協力体制の構築と、易操作性消火栓や自動火災通報装置などの整備を進めていく必要がある。

状況を示す写真や資料等

文化財防火デー 重要文化財「波宇志別神社神楽殿」防火訓練

(令和5年1月21日午前9:30~10:00)

重要文化財 波宇志別神社神楽殿敷地内



訓練講習



通報訓練

横手市増田伝統的建造物群保存地区での防災の取組(令和4年6月23日)



易操作性消火栓の操作研修



AED操作講習

評価軸④-4

文化財の保存又は活用に関する事項

		評価対象年度	令和4年度
項目		現在の状況	
文化財の普及・啓発の取組、民間団体への支援・協力		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

計画に記載している内容
 無形民俗芸能団体(伝統芸能団体)と連携を取りながら、詳細調査や記録作成に関する取り組みを進めるほか、担い手の育成に向けた施策や用具新調への支援等を推進する。
 市の歴史や文化財への関心を高めるための冊子・パンフレットの作成のほか、公開講座の開催等により文化財の保存・活用に向けた普及啓発を行うとともに、地域に伝わる保護団体等の後継者育成を目指すため、地域、小中学校、行政が一体となった活動を展開していく。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

- ・市民向けに発掘調査現場の現地説明会を実施し、調査成果の周知を図った。
- ・小中学校の資料館見学を受け入れたほか、資料館特別展にて職員によるギャラリートークを開催した。
- ・県指定天然記念物「イバラトミヨ生息地」に関する講話のほか、横手を学ぶ郷土学ワークショップによる発掘体験【横手市-9に記載】など、市内小中学校と連携した普及啓発活動を実施した。
- ・雄勝城推定地の発掘調査実施に際し、機材貸出のほか、測量及び図面作成等を支援した。
- ・国指定無形民俗文化財「保呂羽山の霜月神楽」は、コロナ禍で通常開催が危ぶまれたが無事に執り行われた。地域住民の協力により伝統行事を内外に発信することができたほか、継承につながった。

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	幅広い年齢層を対象とした多様な視点での普及啓発の手法を検討するとともに、地域や小中学校との連携が不可欠である。

状況を示す写真や資料等



県指定天然記念物イバラトミヨ生息地に関する講話(左上下)



後三年合戦関連遺跡群調査現地説明会の様子



資料館特別展ギャラリートークの様子



国指定 保呂羽山の霜月神楽の様子

評価軸④-5

文化財の保存又は活用に関する事項

		評価対象年度	令和4年度
項目		現在の状況	
埋蔵文化財の取り扱い		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

計画に記載している内容
 関係法令に基づき、周知の埋蔵文化財包蔵地における開発行為については、秋田県教育委員会、原因者と調整・協議を行い、埋蔵文化財の適切な保護に努めていく。新たに遺跡が発見された際の取扱いについても、法令に基づき適切に取り扱う。
 また、「後三年合戦関連遺跡」については、当面は北部重点区域内において、学術研究を目的とした調査を行う。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

・公共施設建設事業に伴い、郷土館跡・郷土館窯跡の緊急発掘調査を行った。
 ・県営ほ場整備事業に伴い、西小泉遺跡及び堀田Ⅰ遺跡の緊急発掘調査を行った。昨年度に発掘調査を行った大清水Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ遺跡の整理作業及び報告書を刊行した。ほ場整備事業に伴う分布調査では、蟹沢遺跡を新たに確認した。
 ・学術調査としては、金沢城跡(金沢柵推定地)の発掘調査を行い、概報を刊行した。【横手市-5に記載】
 また、雄勝城推定地における秋田県教育庁と民間団体による調査において、測量等を支援した。

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	緊急発掘調査面積が増加傾向にあり、効率的な調査体制の構築が課題である。雄勝城推定地の調査については、今後も支援を継続する。

状況を示す写真や資料等



西小泉遺跡 全景



堀田Ⅰ遺跡 全景



西小泉遺跡 竪穴建物跡 完掘状況



堀田Ⅰ遺跡 井戸跡 曲物 出土状況



西小泉遺跡
 竪穴建物跡出土
 「氏長」墨書土器



堀田Ⅰ遺跡
 墓跡 完掘状況

評価軸⑤-1

効果・影響等に関する報道

	報道等タイトル	年月日	令和4年度 掲載紙等
1	あきた桜模様 お城山、ピンクをまとう 横手公園	令和4年4月25日	秋田魁新報
2	地元リンゴ使い発泡酒 JAふるさとりんご部会青年部 企業と共同で開発	令和4年5月19日	秋田魁新報
3	横手弁で地域の民話披露 昔語りグループ「とっぴんぱらりのプー」継承へ意欲	令和4年5月30日	秋田魁新報
4	漫画研究の成果発表 横手市「日本マンガ学会」開幕	令和4年6月19日	秋田魁新報
5	地域資源の活用 専門家から学ぶ「よこてだいがく」開講	令和4年6月26日	秋田魁新報
6	山内杜氏組合100周年 技をつなぐ 上/中/下	令和4年7月20-22日	秋田魁新報
7	小松和彦コラム・新あきたよもやま 夏の風物詩・鹿島流しを訪ねる 全7回	令和4年8.13-9.24	秋田魁新報電子版
8	横手駅前エリア選ばれる 観光地再生・高付加価値化事業 観光庁計画採択	令和4年8月16日	秋田魁新報
9	夏の夜3年ぶり熱気 舟ぶつけ合い、豪快に 横手の送り盆まつり	令和4年8月17日	秋田魁新報
10	県のDX加速化プロジェクト形成事業 3件採択 音声ツアーを横手市で開催	令和4年8月27日	秋田魁新報
11	光の大輪、秋の夜彩る 増田の花火 5千発、市民見入る	令和4年9月16日	秋田魁新報
12	豪華な造り、魅力たっぷり 増田3年ぶり「蔵の日」イベント 観光客、散策楽しむ	令和4年10月3日	秋田魁新報
13	横手のロケ地歩こう 増田町出身、故石田民三監督 映画「山まつり梵天唄」	令和4年10月4日	秋田魁新報
14	原画保存、蔵文化と共に マンガ原画アーカイブセンターを漆蔵資料館に移転	令和4年10月6日	秋田魁新報
15	若者のミカタ 幻のリンゴに活性化の夢乗せ オカノウエプロジェクト 秋田5号でシードル模索	令和4年10月20日	秋田魁新報
16	11/4から「歴まちカード」配布 東北歴まち認定11都市で各5千枚	令和4年10月21日	日刊建設工業新聞
17	AR使い横手を歩こう 観光スポットでスマホから解説 きくあるく横手城下	令和4年10月25日	秋田魁新報
18	麗しき秋田の思い出 作家・諸田玲子さん寄稿(本多正純、りんご、城下町)	令和4年10月30日	秋田魁新報
19	ここが聞きたい よこて発酵文化研究所長 発酵食文化で町おこし	令和4年10月30日	秋田魁新報
20	実ったリンゴもぎ取り笑顔 横手市平鹿町 味覚まつり、にぎわう	令和4年11月6日	秋田魁新報
21	旧片野家所蔵品を解説 秋田市の書家・長沢さん 講座 大書の揮毫も披露	令和4年11月7日	秋田魁新報
22	夜を徹し厳かな舞 国重要無形民俗文化財「霜月神楽」波宇志別神社	令和4年11月9日	秋田魁新報
23	「銀世界りんご」を発表 JAふるさと統一ブランド 段ボールかまくらイラストも	令和4年11月11日	秋田魁新報
24	「浅舞絞り」力作鮮やか 保存会、40周年記念展 横手市平鹿町	令和4年11月16日	秋田魁新報
25	特産の漬物「いぶりがっこ」横手市が新たな担い手育成へ	令和4年12月12日	NHK秋田
26	県、インフラ50選発表 知恵と工夫 未来へ伝えたい(増田の町並み、山城堰 他)	令和4年12月13日	秋田魁新報
27	アニメ聖地117カ所選定「釣りキチ三平」の横手も	令和4年12月17日	秋田魁新報
28	しめ飾り作り「頑張った」横手市で年末年始行事伝承会 餅つきなども体験	令和4年12月20日	秋田魁新報
29	金沢柵、場所解明に前進 後三年合戦シンポ 今秋発見「堀」重要な意味	令和4年12月27日	秋田魁新報
30	「出前かまくら」にぎわう 東京タワー敷地内 横手市、2月の行事開催PR	令和4年12月30日	秋田魁新報
31	100年前の酵母使用 県内10蔵が酒造り 山内杜氏組合企画	令和5年1月19日	秋田魁新報
32	火災から文化財守ろう 波宇志別神社神楽殿 消防団員ら対応を確認	令和5年1月23日	秋田魁新報
33	伝統文化の奥深さ堪能 和紙の証書卒業生に 中学生有志、紙すき挑戦	令和5年1月31日	秋田魁新報
34	地方点描 雪との対話 かまくら	令和5年2月19日	秋田魁新報
35	文化庁「100年フード」未来部門に横手やきそば	令和5年3月4日	秋田魁新報
36	リンゴの木 手際良く剪定 横手市、農家の作業盛ん	令和5年3月12日	秋田魁新報

ほか 横手市歴史的風致維持向上計画に関連した報道 72件

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

・JA青年部とベンチャー企業による地元発祥品種「やたか」の果汁を使った発泡酒開発、幻の品種を原料としたシードル開発を通じて加工用の需要創出を目指す「オカノウエプロジェクト」、横手産リンゴの統一ブランド「雪国よこて銀世界りんご」による出荷開始など、豪雪地帯の果樹産地(樹園地景観)を逆手にとった産地活性化の動きが活発化している。
 ・「山内杜氏組合」発足100周年祭典や「全国発酵食品サミット」の開催、市による「いぶりがっこ」の担い手育成の取組み等、前出シードルも含めて、**発酵食文化**という切り口により、多彩な展開が期待される。
 ・観光地再生・高付加価値化事業(観光庁)での横手駅前エリア採択、日本マンガ学会の開催、県DX加速プロジェクト形成事業での音声ARきくあるく横手城下、県インフラ50選(増田の町並み、山城堰、横荘鉄道跡 他)、アニメ聖地117選(釣りキチ三平)他、**マンガ原画**、**まちあるき**、**歴史文化遺産**等…多角的な視点で魅力を磨き、差別化と連携によりファンの獲得を図る、**文化観光**による持続可能な観光地形成に向けた取組みが目立った。

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

計画の進捗に影響あり 「歴史的風致」の周辺に広がる地域の文化的な資産を拾いあげ、多角的・多面的に活用することで、自ずと連携や協働による事業展開につながっていく。
 計画の進捗に影響なし

状況を示す写真や資料等

【次項に続く】

評価軸⑤-1

効果・影響等に関する報道

状況を示す写真や資料等



秋田市の書家・長沢さん
横手で講座 大書の揮毫も披露

横手市の歴史文化を学ぶ市民住宅で開かれた。書家の長沢さんによる大書講座が6日、同市羽黒町の旧野家道運常任理事の邸で開かれた。長沢さんは、大書の筆運びや、墨の濃淡の調整などについて、参加者に丁寧に指導した。大書の筆運びや、墨の濃淡の調整などについて、参加者に丁寧に指導した。

聴講者が見守る中、大書をしたためる長沢さん



旧片野家は市指定の歴史的風致形成建造物で、政治家大室の書や、歌人斎藤茂吉の書、作家石坂洋次郎の魚紙など、著名人の作品が保管されている。書家として知られた大室の書「大室回天地」に

所蔵の掛け軸や横額、書簡のほか、大書の揮毫も披露した。旧片野家は市指定の歴史的風致形成建造物で、政治家大室の書や、歌人斎藤茂吉の書、作家石坂洋次郎の魚紙など、著名人の作品が保管されている。書家として知られた大室の書「大室回天地」に

の紙2枚に横手市民歌の歌詞を、中国の詩人劉琨の漢詩をそれぞれしたため、聴講した約20人が拍手を送った。

同日増田町の石山真衣子さんの見方を学ぶ機会はないかなと、熱心に話を聞いた。横手には、書家や文化人の作品を他にもいろいろ見たい」と話した。

旧片野家は30日まで、長沢さんの作品約30点を内蔵に展示している。公開は平日のみ。入場には3日前までに事前予約が必要。23日はキャリアトークを開く。申し込みや問い合わせは市文化振興課01882・23・6767 (佐藤悠大)

旧片野家所蔵品を解説 横手で講座 大書の揮毫も披露
秋田市の書家・長沢さん
秋田魁新報 (令和4年11月7日)



MINEBA
情報提供 街の便利機能情報提供

情報検索 グルメ検索 街の便利機能 病院検索 MINEBA journal アプリ

見る・遊ぶ

横手で街歩きイベント、モニター募集 拡張現実アプリ使い横手城下テーマに

公開日:2022-10-19



横手市は、現在、横手城下の街歩きイベント「さくあくる 横手城下」のモニター参加者を募集している。

横手城下に配慮をもつ伝統行事などの周知を目的に、横手市が主催する「横手城下歴史ウィーク」の一環として開くイベント。音声拡張現実アプリを使いながら羽州街道を中心に横手城下を散策するイベントのモニターを募集する。

スマートフォンの位置情報を使う音声拡張現実アプリ「さくあくる」を使い、横手市出身の声優・米内佑希さんの音声ガイドや、店舗で実際に使えるクーポン案内など、対象エリア内33カ所でお声や音のお囀りを聞きながら散策する。主な対象エリアは、中央町・四日町・大町・鍛冶町・羽黒町・上内町・相岸町・城南町・本町・城山町。

市文化振興課の担当者は「ガイドと一緒に複数人で歩く散策とは違い、アプリを使うことで、好きな場所を1人で楽しめることが魅力。散策に気持ちのいい季節、最先端の街歩きのモニターとして体験してもらえれば」と話す。

開催日は11月1日～6日。各日9時30分～13時30分への2回開く。定員は各回20人。申し込みはホームページで受け付ける。締め切りは10月28日。



横手経済新聞

MINEBA
秋田県横手市を中心とした
県南地域のローカルメディア。
小さな情報から大きなハッピーニュースまで!
みんなで作る、みんなのニュース版

横手で街歩きイベント、モニター募集 拡張現実アプリ使い横手城下テーマに
毎日楽しく!便利にする!秋田県南情報アプリ!
MINEBA みねば (令和4年10月19日)

評価軸⑥-1
その他(効果等)

評価対象年度 令和4年度

項目

歴史的風致形成建造物の利活用によるまちなか回遊性の向上と、にぎわいの創出

計画に記載している内容 歴史的風致の維持向上のため、歴史的風致形成建造物の積極的な公開・活用を図るものとする。公開にあたっては、外部から望見できるように措置を講ずるだけでなく、個々の価値や用途に応じ、可能な限り内部の公開に努めることとする。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で。記事・議会議事録等を添付

・歴史的風致形成建造物である「旧片野家住宅」の庭園公開(6月11日、16日:79人)及び、調査報告・現地見学会(9月10日:54人)を開催した。また、文化財保護法第183条の5(文化財保存活用地域計画の認定を受けた場合の特例)による、文化財の登録の提案に向けた手続きに着手した。
 ・旧片野家住宅を使用した、にぎわいをまちなかに創出する企画を公募(旧片野家トライアル開放)し、「横手城下歴史ウィーク」協賛企画として、同住宅の一般公開とあわせて様々な活用を試行した。(11月1～6日:来場者1,205人)【詳細は横手市-8に記載】
 ・音声ARまちあるきアプリ「きくあるく横手城下」の素材として歴史的風致形成建造物指定の3件を起用し、同エリアにおける回遊性向上のコンテンツとして使用した。【詳細は横手市-8に記載】

進捗状況 ※計画年次との対応 実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

☑計画の進捗に影響あり
 □計画の進捗に影響なし 旧片野家住宅の整備活用の方向性も含め、まちづくりと連動した歴史的建造物の効果的な活用を検討していく。

状況を示す写真や資料等



旧片野家住宅調査報告会の様子
 講師:上野勝久 東京藝大大学院教授



旧片野家トライアル開放による「庭園小市」の様子
 主催:庭園小市実行委員会



横手城下歴史ウィークのチラシ

評価対象年度	令和4年度
・法定協議会等におけるコメント	
コメントが出された会議等の名称: 令和4年度第2回横手市歴史的風致維持向上協議会	
会議等の開催日時: 令和5年2月10日(金)	
【全体評価】	
<ul style="list-style-type: none"> ・ヘリテージマネージャーを組織化し、歴史的風致向上支援法人として指定することにより、取組み全体の評価がより高まると考える。 ・文化財等の調査を委託して終了なのではなく、行政がフォローし活用につなげている。そのことが計画全体として良い方向に進んでいることにもうかがえる。 ・歴史的建造物を活用していく場合、その歴史的価値が伝わるような工夫をし、歴史的な場所を使用できることのすばらしさを住民や来街者が認識できるようにすることを気にかけて進めてほしい。 ・文化財保護の潮流として、地域連携と観光施策との結びつきが重要となっている。地域の文化財を守り、掘り起こすことが「まちづくり」につながっていく活動になることを期待している。 	
【北部重点区域環境整備検討事業】	
<ul style="list-style-type: none"> ・あきたヘリテージマネージャー協議会として旧片野家住宅調査に参加。今後、同物件本体に光をあてる取組みも必要で、担当が歴史的建造物としての価値を一般向けに説明する機会も増すだろう。ヘリテージマネージャーの認知や役割拡大にもつながることから、さらなる協力体制を築きたい。 ・横手市観光協会として、横手城下歴史ウィークにも関わり、取組みを評価している。音声ARガイドで多数の来街者がまちなかを回遊している光景はかつてない試みだった。旧片野家住宅にて“かまくらと古民家”という印象的な景観としての活用を考えており、観光ポイントとなるような整備を期待する。 ・横手市観光推進機構(DMO)として、旧片野家住宅は様々な活用が考えられる施設と考えている。市として維持管理や活用の方向性を早急に示されたい。協力や支援は惜しまない。 ・市教委として、横手城下エリアについて、多くの人に関わってにぎわい創出につながっていることを認識した。子どもたちに歴史的風致の価値を伝えていく取組みを同エリアでも検討したい。 ・横手城下エリアでの、まちなか回遊性向上への施策のさらなる強化を要望する。例えば、回遊ルートの横手駅方面への拡大、都市計画道路八幡根岸線と関連した案内板整備、横手公園への誘導、景観重点地区内に位置する旧片野家住宅前の通りの景観形成など。 	
【ガイド養成事業】ほか	
<ul style="list-style-type: none"> ・地域通訳案内士として運用していく際、窓口や組織の明確化など課題はある。想定では、かまくらなどのイベントでの観光ガイドをイメージしているようだが、増田の町並みの場合、単独で案内するのは現実的でなく、既存ガイドに通訳として随行するなど、ガイド形態の調整も必要と考える。 ・「盛り上がり」の持続が大切。例えば「ガイド養成事業」で養成する地域通訳案内士が活躍する舞台を準備することで、市民が歴史まちづくりの取組みを知ることにつながり、歴史まちづくりの機運醸成につながる好循環が生まれる。今後、DMOや観光協会が伴走しながら取り組んでいくことが重要。 	
【その他】	
<ul style="list-style-type: none"> ・市では景観重点地区まちづくり委員会の景観形成に関する活動に助成しているが、構成員の高齢化が課題である。担い手として、住民や所有者自らが景観保全を担っていくという視点が大切。 ・サインガイドラインは、積雪時を考慮した歩行者系案内サインなど、再検討を要する部分もある。 	
(今後の対応方針)	
<ul style="list-style-type: none"> ・あきたヘリテージマネージャー協議会など関係組織と協議し、歴史的風致形成支援法人としての指定に向けた条件を整えていきます。 ・「北部重点区域環境整備検討事業」の計画変更により、旧片野家住宅周辺のまちなみ景観の保全、まちなか拠点施設としての整備及び利活用とまちなか回遊性向上につながる仕組みづくりを、多様な担い手と連携することで定着を図ります。 ・歴史的建造物に限らず文化財等について、その価値を市民にわかり易く共有していくことと並行して、それら地域資源を“資産”として積極的に活用していく取組みを、「横手市歴史文化遺産保存活用地域計画」との連動により進めていきます。 ・地域通訳案内士については、DMOや観光関連事業者と連携・協力を図りながら、認知度向上や質の維持・向上に努めて参ります。 	